

序論

「キャラクター」という用語は、小説や映画やドラマなどの中に役者になる人たちを指す。この論文は頼朝の小説を分析し、その中に、頼朝と義経が主人公になり、清盛は敵対者になり、それぞれの役者を説明する。

この研究では記述的方法を用いた。Koentjaraningrat (1976:30) によると、記述方法とは、現実に基づいて現時点で行われた研究の状態や目的を記述し、それを収集し、編纂し、それと他の人物との影響を説明することによって問題を解決する方法である。この研究では、主人公と敵対者の3人のことを説明する。主人公は小説でいい人になる。彼は事件の犯人と事件の両方として、最も広く知られている人物である。著者はまた、この研究のアプローチとして構造主義を用いる。

主人公は、頼朝と義経がヒーロとして一般に呼ばれていることを賞賛している人物である。小説を読んで、読者はしばしば特定のキャラクターを記述し、同情と共感を与え、感情的にキャラクターと関わっている。主人公との関係は、キャラクターが主人公の役割を共有し、読者から共感を得ることである。

フィクションには、普通、緊張、特に主人公が経験することと緊張を含んでいる。普通の原因はアンタゴニストと呼ばれている。アンタゴニストは、直接的または間接的に、主役に対抗して呼び出すことができる。

主人公が経験したことは、アンタゴニストによって引き起こされる必要はなく、力、強度などによっても引き起こされる可能性がある。

本論

この分析では、頼朝と義経との関係について論じる。そして、頼朝と義経の紛争と頼朝と清盛である。第一は、頼朝と義経との関係は、彼らが同じ父親と、別の母親を持っている。義朝と由良御前（藤原季範の三番目の娘）との最初の結婚は、3人の男の子が恵まれている。最初の息子の源義平は19歳で、二男の息子の源朝長は16歳で、三男の息子の右兵衛の佐頼朝は13歳である。

ただし、由良御前との結婚に加えて、義朝は、常盤御前と呼ばれる女性から3人の息子がいます。最初の息子はいまわかと呼ばれ、二男の息子はおとわかと呼ばれ、と三男の息子は牛若と呼ばれている。

一方で、頼朝と義経紛争の発生は、梶原景時が頼朝と義経の関係を打破したという中傷の結果であった。頼朝が義経に同行していた梶原景時からの手紙を受け取った後、梶原景時は、義経が平氏一族を破壊することの成功が彼のサービスだけによると繰り返し主張したという中傷を書いた。

頼朝は、義経に同行していた梶原景時からの手紙を受けた。義経は鎌倉市に入ることができないと囚人だけが入ることが許される。それを聞いた義経は非常に失望していたと軍隊に対処する。「関東に於いて怨み

を成すの輩は、義経に属すべき」と言う。義経の演説は、すぐに兄の領土を没収した頼朝に届けられた。

結局、平氏一族一の谷と壇ノ浦の戦いを失い、義経は頼朝の知識なしに天皇の称号を与えられた。頼朝は非常に怒った、義経と彼の軍隊を殺すために彼の軍隊に命じた。頼朝は、義経と静御前の赤ちゃんが一緒に殺すよう命じた。頼朝信者は、鎌倉市の湯河原にあるの赤ちゃんを投げる。その時、義経は大州にそれを作り、藤原の秀平からの保護を求めた。藤原の秀平は、義経を解消するために関東から西に^{にし}ムツ県に移動し続けている頼朝の軍隊に驚いている。

結論

第 3 章で行った分析に基づいて、著者らは、頼朝、義経、清盛に同様に重要な役割を果たすとの結論を導く相互接続された。頼朝と義経は「一の谷」と「壇ノ浦」の戦いで平氏を敗北させた。それだけでなく、清盛も頼朝の嘆願を受けて与野党に死刑を取り消した池の禅尼と宗清と重盛である。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
BAB 1 PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Pembatasan Masalah	6
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Pendekatan Penelitian dan Metode Penelitian	6
1.5 Organisasi Penelitian	10
BAB II PENOKOHAN	12
2.1 Unsur Instrinsik Karya Sastra	12
2.2 Penokohan	12
2.3 Kategori Tokoh	17
2.3.1 Tokoh Utama	17
2.3.2 Tokoh Pembantu	18
2.3.3 Tokoh Protagonis	18
2.3.4 Tokoh Antagonis	19
2.3.5 Tokoh Sederhana	20
2.3.6 Tokoh Bulat	20
2.3.7 Tokoh Statis	21

2.3.8 Tokoh Berkembang	21
2.3.9 Tokoh Tipikal	22
2.3.10 Tokoh Netral	22
BAB III KAJIAN TOKOH DALAM NOVEL MINAMOTO YORITOMO	23
3.1. Tokoh utama	23
3.1.1. Minamoto Yoritomo (^{みなもと よりとも} 源 頼朝).....	23
3.1.2 Minamoto Yoshitsune (^{みなもと よしつね} 源 義経).....	37
3.1.3 Taira Kiyomori (^{たいら きよもり} 平 清盛).....	43
3.2 Tokoh pembantu	47
3.2.1 Hojo Masako (^{ほうじょう まさこ} 北条 政子).....	47
3.2.2 Minamoto Yoshitomo (^{みなもと よしとも} 源 義朝).....	56
3.2.3 Ike no Zenni (^{いけ ぜんに} 池の禅尼).....	58
3.2.4 Tokiwa Gozen (^{ときわ ごぜん} 常盤御前).....	60
3.3 Tokoh Protagonis	63
3.3.1. Minamoto Yoritomo (^{みなもと よりとも} 源 頼朝).....	64
3.3.2. Ike no Zenni (^{いけ ぜんに} 池の禅尼).....	68
3.3.3. Minamoto Yoshitsune (^{みなもと よしつね} 源 義経).....	69
3.3.4 Taira Kiyomori (^{たいら きよもり} 平 清盛).....	70
3.4 Tokoh Antagonis	73
3.4.1. Minamoto Yoritomo (^{みなもと よりとも} 源 頼朝).....	73
3.4.2. Taira Kiyomori (^{たいら きよもり} 平 清盛).....	75

BAB IV KESIMPULAN	78
DAFTAR PUSTAKA	82
SINOPSIS	83
RIWAYAT HIDUP	86

